

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

代 表 校 名 (連 携 校 名)	千葉大学 (東邦大学) 計2大学
事 業 名	地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を醸成する地域志向型医療人材養成プログラム
事 業 責 任 者	理事(企画・人事・病院担当)・中谷 晴昭
事 業 の 概 要	
<p>ポストコロナ時代では、地域における医療ニーズの変化や予測困難な課題発生に対応できる総合力・適応力・教育力を有する地域志向型リーダーが必要である。本事業では医師少数県である千葉県において、学生や医療者の地域医療に対する高い情熱と好奇心を涵養するため、地域志向型リーダーの養成拠点を構築する。具体的には地域医療学、早期地域医療体験、地域 IPE、ジェネラリスト入門(総合診療、救急・災害医療、感染症等)、統合的クリニカル・クラークシップ、地域クリニカル・クラークシップ等からなる「6年一貫地域医療学修プログラム」を展開する。本プログラムでは、大学と大学、大学と地域、地域と地域をオンラインで繋ぐ双方向性学修や、オンデマンド学修を活用する。地域志向型リーダーは総合力・適応力・教育力を発揮し、地域医療での診療・教育・研究を活性化させ、持続可能性のある人材循環システムを構築して、医師偏在・地域偏在を解決する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○6年間一貫地域医療学修プログラムは、地域枠学生に地域医療での自らの役割を自覚させることができ、高く評価できる。</p> <p>○両大学の教育実績を生かして、デジタルを活用した6年間一貫教育を展開しており効果が期待できる。</p> <p>○地域志向型リーダーの養成は、専門医志向の強い医学生の中で地域の課題解決に対応するリーダー意識の涵養は優れている。</p> <p>○申請校の理事が責任者で両大学の学部長が委員会に参画し、評価委員会などのもとPDCAサイクルで改善を図る仕組みは評価できる。また、体制が十分に整っているように評価できる。</p> <p>○地域医療教育学講座の設置と地域病院アテンディングの配置は実効的な指導体制が期待される。</p> <p>○取り組み継続に向けて具体的な構想が記載されている。</p> <p>●二つの大学のプログラム数の差があり、相互乗入れなどにより双方の地域枠学生に公正な教育が行われることを期待したい。</p> <p>●ジェネラリスト入門の内容は、卒前教育の本幹であり、デジタル活用で全学生対象も検討できると考えられた。また、アスパイアプロジェクトは、可能であれば、低学年から導入があるとよいと考えられた。</p> <p>●展開が限定されているが、全国への波及も期待したい。</p> <p>●予算補助に関しては事業開始後に意見交換をおこない、令和9年以降予算補助を受け事業の継続を行うというのは根拠が不明瞭である。</p> <p>●3年目以降の計画は前年と同じであり具体性が乏しい。</p>	